

株式会社 大林組 様 / 大林組グリーンボンド

DNV GL グリーンボンド定期レビュー



2019 年 10 月

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

スコープと目的：

2018年10月25日、株式会社大林組（以下、「大林組」または「発行者」）は大林組グリーンボンド（以下、「ボンド」）を発行しました。債券発行額は100億円、償還期間は5年です。DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社（以下、「DNV GL」）は、グリーンボンドガイドライン（環境省、2017年、以下「GBGLs」）およびグリーンボンド原則2018（ICMA、以下「GBP」）を参照し、グリーンボンド適格性評価を実施しました。

大林組は、2011年に策定した中長期環境ビジョン「Obayashi Green Vision 2050」をESG経営の推進とSDGs達成への貢献を意識した内容へと発展させ、大林組グループ一体でサステナビリティを追求するため「Obayashi Sustainability Vision 2050」として改訂しています。また、特定した6つのESG重要課題（マテリアリティ）のうち「環境に配慮した社会の形成」の解決に向けたアクションプランとして、「再生可能エネルギー事業の推進」及び「環境配慮型事業の推進」を設定しています。これらは、大林組グリーンボンド計画時の「Obayashi Green Vision 2050」に基づくアクションプラン「再生可能エネルギー事業の推進」及び「環境配慮型開発事業の推進」と一致する戦略です。

大林組は大林組グリーンボンドで調達した資金を以下に分類されるプロジェクト及び資産に対し、計画通りに充当しました。

「再生可能エネルギー事業の推進」

- ・太陽光発電事業
- ・風力発電事業(陸上)

「環境配慮型事業の推進」

- ・グリーンビルディング

また、同様に、以下に分類されるプロジェクト及び資産に対し、計画通りに充当を開始しました。

「再生可能エネルギー事業の推進」

- ・風力発電事業(洋上) * SEP：自己昇降式台船

* グリーンボンド調達資金の充当は、ファイナンス及びリファイナンスの両方が含まれます。プロジェクト及び資金充当状況の詳細はスケジュール-1を参照ください。

DNV GLはグリーンボンドの発行前および定期レビューを提供するよう大林組から委託されています。これを達成するための我々の基準と情報は下記の「評価作業」で説明されています。定期レビューは、2019年9月26日に実施した大林組へのインタビュー並びに大林組によって提供された情報（大林組関係者へのインタビュー及び文書）に基づいて行われました。我々は独立した保証対応や他の監査活動は提供しません。

この報告書では、発行体の財務的なパフォーマンス、債券のいかなる投資の価値、あるいは選定されたプロジェクトの長期の環境便益に関する保証は提供しません。DNV GLの目的は、債券の資金使途が後述する基準に合致しているか、について評価を提供することです。

大林組および DNV GL の責任

大林組は、DNV GL がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しています。DNV GL のステートメントは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基礎にして、確立された基準が満たされているかどうかについて大林組及び債券の利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々は、大林組から提供された情報及び事実を根拠にしています。DNV GL は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対して責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV GL は、大林組の関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータのいずれかが正確または完全でなかった場合、責任を問われないものとします。

DNV GL 意見の基礎

DNV GL は、大林組に特有のグリーンボンド適格性評価手順(以下、「手順」)を作成するため、グリーンボンド原則 (GBP)^{*1}、グリーンボンドガイドライン(GBGLs)^{*2} 及び気候ボンド基準(債券発行前評価時のみ)^{*3} の評価方法論を採用しており、これらは GBP の要求事項が組み込まれています。

我々の手順は、DNV GL の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、グリーンボンドは「環境便益を伴う新規又は既存プロジェクトへの資本調達や投資を可能とする」べきである、というものです。

我々の手順に従って、レビューされる債券に対する基準は、以下の 4 つの原則にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、グリーンボンドの発行体が適切な活動に対する融資として調達した資金を使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです。
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、グリーンボンドの発行体が、グリーンボンド調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、グリーンボンドが発行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポーティング**：レポーティングの基準は、債券への投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的な適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

*1:グリーンボンド原則 (2018 年国際資本市場協会 ICMA)

*2:グリーンボンドガイドライン 2017 年版 (2017 年 3 月環境省)

*3:気候ボンド基準 2.1 版 (気候ボンドイニシアチブ)

評価作業

DNV GL の業務は、大林組によってこの情報が我々に誠実に提供されたという認識に基づき、入手可能な情報の上位レベルのレビューで構成されます。DNV GL は、我々に提供された情報の正確さをチェックするための監査やその他試験を実施しません。我々の意見を形成する評価作業には、以下の初回アセスメント及び定期アセスメントが含まれます。

初回アセスメント(債券発行前)

- 債券発行への適用を目的とした、発行体のグリーンボンドを評価するための手順の作成。スケジュール-2 に評価結果の概要を示します。
- 債券に関して発行体より提供された文書の評価及び、上位レベルデスクトップ調査による補足的な評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照します。
- 発行体との協議及び、関連する文書のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書化。

定期アセスメント(債券発行後)

- 債券発行に関連した発行体から提供された根拠書類、上位レベルのデスクトップ調査、文書レビュー、発行体の主要担当者へのインタビューで補足された根拠書類の評価。これらのチェックは、現在の評価のベストプラクティスと標準の方法論を参照しています。
- 発行体関係者との協議、および関連資料のレビュー。
- 現地調査および検査(必要な場合)。
- スケジュール-2 に記載されたプロジェクト及び資産の定期評価時点でのレビュー
- 定期評価における観察事項の詳細の文書化。

我々の意見表明（詳細は後述）はこれらの観察結果を要約したものです。

観察結果及び DNV GL 意見表明

DNV GL の観察結果と意見は以下の通りです

要素 1 : 調達資金の用途

大林組は、調達した資金[調達総額 100 億円のうち手取り金 99.4 億円]を、以下の事業にリファイナンスしたと、及びファイナンスを開始したことを報告しています。

(1) グリーン適格プロジェクト (リファイナンス):

再生可能エネルギー事業の推進 (プロジェクト 01-04)

- プロジェクト 01-03 : 太陽光発電事業 : 35 億円

- プロジェクト 04 : 風力発電事業(陸上) : 5 億円

環境配慮型開発事業の推進 (プロジェクト 06)

- プロジェクト 06 : グリーンビルディング : 30 億円

小計 : 70 億円

(2) グリーン適格プロジェクト (新規充当):

再生可能エネルギー事業の推進 (プロジェクト 05)

- プロジェクト 05 : SEP 建造

*2019 年 9 月に計画通り着工・充当開始

小計 : 残額 (29.4 億円)

合計 : 99.4 億円

DNV GL は上記の選定されたプロジェクト及び資産が適格性を満たしていることをレビューしました。



プロジェクト 01 芦北太陽光発電所



プロジェクト 02 釧路町トリトウシ原野太陽光発電所



プロジェクト 03 日向日知屋太陽光発電所



プロジェクト 04 三種浜田風力発電所



プロジェクト 05 自己昇降式作業台船 SEP (Self Elevating Platform) イメージ



プロジェクト 06 oak 神田鍛冶町(商用ビル)

要素 2 : プロジェクトの評価及び選定のプロセス

調達資金はスケジュール-1 に記載のプロジェクト及び資産に対して、計画通りにリファイナンス、ファイナンスが開始されました。また、DNV GL は、大林組が当該プロジェクトの建設及び実行に当たっては、定期的に改善の機会(可能性)を判断・評価し、また活動計画の立案、実行を通じて生じる環境や社会に対するネガティブな影響を低減するための自主的な活動を実施していることを、レビューを通じて確認しました。

要素 3 : 調達資金の管理

DNV GL は、大林組が債券発行以降から償還期間まで、どのように調達資金をトレースしたかについて提示した証拠をレビューしました。この定期レビューにおいては、2018 年度末(2019 年 3 月末)における調達資金の管理状況について、大林組から提供された具体的な記録(文書)に基づき確認されました。すべての調達資金は支出されるまで現金及び現金同等物で管理されています。支出と残高の詳細は大林組の内部手順に基づき記録されています。大林組が各会計期間(年度)で調達資金の残高を上記管理に基き、レビューしています。DNV GL は定期レビューにおいて 2018 年度末(2019 年 3 月末)時点において 100 億円の調達額に対して計画通り 70 億円がリファイナンスとして充当済みであること、残額は 2019 年 9 月から SEP 建造に順次充当が開始されていることを大林組から提供されたエビデンスを基に確認しました。

なお、先述の通り、ここでは DNV GL は債券の財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境効果に関する取扱いは提供されません。

要素 4 : レポーティング

DNV GL はグリーンボンドで要求される特定の項目に関して、大林組が、大林組のウェブサイト及び ODAYASHI コーポレートレポートにて年次報告・公開していることを確認しました。またプロジェクト概要、資金充当・運用状況並びに関連する定量的及び定性的な環境評価結果(再生可能エネルギーに関する事業、省エネルギーに関する事業(グリーンビル)における CO₂ 排出量削減量等)が含まれていることを確認しました。

DNV GL は定期レビューを通じて、グリーンプロジェクトによりもたらされた環境改善効果が、債券発行前に大林組が定めた方法で適切に算定されていること、また環境改善効果が概ね計画通り得られていることを確認しました。

表-1 に大林組グリーンボンドのうち商用運転開始済プロジェクトでの環境改善効果評価結果を示します。

表-1 環境改善効果の進捗状況 (2018 年度実績)

プロジェクト		環境改善効果
01	芦北太陽光発電所	CO ₂ 削減効果 : 48,575 t-CO₂/2018 年度 * 実績ベース ^{※1}
02	釧路町トリトウシ原野太陽光発電所	
03	日向日知屋太陽光発電所	
04	三種浜田風力発電所	
05	SEP(自己昇降式作業台船)	当該 SEP にて施工した 着床式洋上風力発電設備の設置基数 : 0 基 * SEP は 計画通り 2020 年 10 月完成引渡し予定
06	グリーンビルディング(oak 神田鍛冶町)	・ 大林組ウェブサイトに掲載している「環境活動実績」のうち、「設計施工建物の運用時 CO ₂ 排出量の削減」に含めて記載 ・ BELS 認証制度で最高ランク(☆☆☆☆)評価

※1 : CO₂ 削減効果 = 年間発電量実績 (kWh) × 電気事業者別 CO₂ 排出係数 (kg-CO₂/kWh)
(電気事業者別 CO₂ 排出係数 [出所 : 環境省])

DNV GL は、大林組から提供された情報と実施された業務に基づき、大林組が発行したグリーンボンドは評価手順の要求を満たしていること、そして GBP 及び GBGLs の中で述べられている「環境への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」というグリーンボンドの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2019 年 10 月 28 日



Mark Robinson

マーク ロビンソン

サステナビリティサービス マネージャー

DNV GL ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



Naoki Maeda

前田 直樹

代表取締役社長

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



Masato Kanedome

金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV GL

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV GL enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight. With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

1. スケジュール 1 対象プロジェクト概要

No.	対象プロジェクト及び資産	グリーンプロジェクト分類 [環境改善効果]	グリーンプロジェクト サブ分類	グリーンボンド充当額 (総額100億円のうち 手取り金99.4億円)	特記事項 (設置場所、出力(発電所)、概要、等)
01	芦北太陽光発電所 (リファイナンス)	再生可能エネルギー [エネルギー起源 CO ₂ 削減] [No.5のみ施工した着床式洋上 風力発電設備の設置基数実績]	太陽光発電(陸上)	35億円 (2018年度充当完了)	熊本県芦北 21.5MW - 2014年4月運転開始
02	釧路町トリウ原野太陽光発電所 (リファイナンス)				北海道釧路 17.8MW - 2017年4月運転開始
03	日向日知屋太陽光発電所 (リファイナンス)				宮崎県日向 24.5MW - 2017年5月運転開始
04	三種浜田風力発電所 (リファイナンス)		風力発電(陸上)	5億円 (2018年度充当完了)	秋田県三種 5.97MW - 2017年11月運転開始
05	SEP(自己昇降式作業台船) (新設)		風力発電(洋上)専用設備	残額 29.4億円を予定 (2019年度充当開始)	着床式洋上風力発電所建設工事用 (JMU 製) - 計画通り2020年10月完成引渡しに向け着工 及び充当開始
06	oak 神田鍛冶町 (リファイナンス)	省エネルギー(グリーンビル) [エネルギー起源 CO ₂ 削減]	認証された省エネ性能を有する グリーンビル(商用)	30億円 (2018年度充当完了)	- 東京千代田区 BELS認証制度最高ランク、 2017年8月完成、賃貸オフィスビル

2. スケジュール 2 グリーンボンド適格性評価手順

表中に記載の大林組グリーンボンドフレームワーク及び法定関連書類(訂正発行登録書)、及び 2018 年度実績に関する定期レポートは投資家向け説明資料として別途公開されています。

(1) Use of proceeds 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
1a	グリーンボンドの種類	グリーンボンドの種類は GBP で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 <ul style="list-style-type: none"> ・(標準的)グリーンボンド ・グリーンレベニュー債 ・グリーンプロジェクトボンド ・グリーン証券化債 	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> -大林組グリーンボンドフレームワーク -訂正発行登録書 大林組関係者との協議	DNV GLは、資料レビュー及び協議結果に基づき、債券の分類は以下であることを確認した。 (標準的)グリーンボンド
1b	グリーンプロジェクト分類	グリーンボンドにおいて肝要なのは、その調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることであり、そのことは、証券に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - 大林組グリーンボンドフレームワーク - 訂正発行登録書 - 2018 年度資金充当実績関連資料 - プロジェクト関連資料 大林組関係者との協議	債券の目的に応じた判断により、調達資金の使途は以下のプロジェクト分類にリファイナンスされた。 <再生可能エネルギーに関する事業> - 太陽光発電事業へのリファイナンス(3 件) : <ul style="list-style-type: none"> ● 芦北太陽光発電所 ● 釧路町トリトウシ原野太陽光発電所 ● 日向日知屋太陽光発電所 - 風力発電(陸上)へのリファイナンス(1 件) : <ul style="list-style-type: none"> ● 三種浜田風力発電所 <省エネルギーに関する事業> - グリーンビル(商用)へのリファイナンス(1 件) : <ul style="list-style-type: none"> ● oak 神田鍛冶町オフィスビル また、以下のプロジェクト分類は今後計画通りに充当予定であることを確認した。 <再生可能エネルギーに関する事業> - 風力発電(洋上)専用設備へのファイナンス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
				<ul style="list-style-type: none"> SEP(自己昇降式作業船台) <p>DNV GL はアセスメントを通じ、プロジェクトがグリーンボンド原則 2018 に基づく分類(再生可能エネルギー及び省エネルギーに関する事業)であり、CO₂ 排出リスクが相対的に少ないことや、またネガティブな影響が定性的及び定量的になっていることを確認した。また、これらの事項は、フレームワークを含む法的書類にも記載されており、1b での要求事項を満足していると結論付ける。</p>
1c	環境面での便益	調達資金使途先となる全てのグリーンプロジェクトは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大林組グリーンボンドフレームワーク - プロジェクト関連資料 - 2018 年度再生可能エネルギー事業 CO₂ 削減効果の実績 <p>大林組関係者との協議</p>	<p>DNV GL は太陽光発電プロジェクト及び風力発電プロジェクトは、建設及び運転を通じて土地利用や生態系への影響(リスク)があると考えている。DNV GL は大林組から提供された資料のレビューにより、大林組がプロジェクト実行に伴うリスクやそれに対する適切な対策を講じていることを確認した。また、大林組はプロジェクト実行により明確な CO₂ 排出低減の環境改善効果があることを示していることを確認した。また、SEP 建造は、日本政府が策定する第 5 次エネルギー基本計画(2018 年 7 月 経済産業省)における洋上風力発電導入促進の方針、また、風力発電協会による洋上風力発電導入推進に関する提言を鑑み、日本国内において洋上風力発電所市場の拡大に貢献するものです。oak 神田鍛冶町は、BELS 認証制度で最高ランク[☆☆☆☆ 評価手法「通常の計算法」(2016 年度基準)にて一次エネルギー消費量基準 40%削減と評価]を取得しており、環境面での便益が期待されることを確認した。DNV GL は要求事項 1c を満足していると結論付ける。</p>
1d	リファイナンスの割合 Refinancing share	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大林組グリーンボンドフレームワーク - 訂正発行登録書ドラフト - 2018 年度資金充当実績関連資料 <p>大林組関係者との協議</p>	<p>調達資金 (100 億円)は全てグリーンプロジェクトに充当され、そのうちリファイナンス計画としていた 70 億円(調達総額の約 70%)は計画通りリファイナンスとして 2018 年度に充当された。</p> <p>太陽光発電事業：35 億円(2018 年度リファイナンス完了) 風力発電(陸上)事業：5 億円(2018 年度リファイナンス完了) グリーンビルディング事業：30 億円(2018 年度リファイナンス完了)</p>

(2) プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>グリーンボンドの発行体はグリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行体が、対象となるプロジェクトがグリーンボンド原則の適格なグリーンプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス グリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての基準作成 環境面での持続可能性に係る目標 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> 大林組グリーンボンドフレームワーク プロジェクト選定に関する大林組文書 <p>大林組関係者との協議</p>	<p>大林組グリーンボンドフレームワークに基づき、発行体(大林組)が GBP2018 及び関連する基準に従いプロジェクトの選定を行った。適格グリーンプロジェクトは、大林組の企業理念及び環境方針に合致したものであり、このボンドでは Obayashi Green Vision 2050 を発展させた Obayashi Sustainability Vision2050 に関連して記載されている以下の取組が、グリーンボンド原則 2018 に合致していることを確認した。</p> <p>Obayashi Sustainability Vision2050</p> <p>『環境に配慮した社会の形成』をマテリアリティとして定め、具体的には以下をアクションプランとして定めている</p> <ul style="list-style-type: none"> 「再生可能エネルギー事業の推進」 「環境配慮型事業の推進」 <p>DNVGL はプロジェクト及び資産の選定が大林組の関連部署及び責任者により決定されたことを確認した[本社財務部、本社環境部、関連する事業部門、CSR 委員長(代表取締役社長)]。DNV GL は文書レビュー及び大林組との協議を通じ、2a の要求事項を満足していると結論付ける。</p>
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>グリーンボンドプロセスに関して発行体により公表される情報には、基準、認証に加え、グリーンボンド投資家は発行体のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> 大林組グリーンボンドフレームワーク https://www.obayashi.co.jp/sustainability/vision.html https://www.obayashi.co.jp/en/sustainability/environment.html https://www.obayashi.co.jp/renewable_energyl/ <p>大林組関係者との協議</p>	<p>DNV GLは大林組が債券発行前に参照したObayashi Green Vision 2050を発展させたObayashi Sustainability Vision2050として改訂し、環境及び社会に配慮した取組を推進する方針であることを確認しました。</p> <p>DNV GLは大林組へのインタビュー及び大林組から提供される文書のレビューにより、Obayashi Sustainability Vision2050に基づく事業活動を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでいることを確認しました。大林組は上記の持続可能な活動状況OBAYASHIコーポレートレポート及び関連ウェブサイトにおいて上記の持続可能な社会の達成に向けた活動を含むグリーンボンド特有で要求される事項について公開している。また大林組は20カ所以上の再生可能エネルギー設備を保有しており、低炭素社会の実現に貢献している。</p> <p>https://www.obayashi.co.jp/sustainability/vision.html https://www.obayashi.co.jp/sustainability/environment.html</p>

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
				<p>https://www.obayashi.co.jp/renewable_energy/</p> <p>DNV GLは債券に含まれるプロジェクト及び資産の環境改善効果が、大林組グリーンボンドフレームワークに従って、大林組の定期的なサステナビリティ報告の一部として報告されていることを確認した。</p> <p>DNV GLは大林組の環境活動への取り組みがグリーンプロジェクトを通じて持続可能な社会に貢献することを確認した。</p>

(3) 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	グリーンボンドによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、グリーンプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大林組グリーンボンドフレームワーク - 訂正発行登録書(ドラフト) - 大林組内部手順(経理管理手順、文書管理規程等) - 2018年度資金充当実績関連資料 <p>大林組関係者との協議</p>	<p>DNV GLは文書レビューとインタビューにより大林組がボンド発行時点から支出が完了するまでの間、調達資金を適切に追跡調査する計画であることを確認した。調達資金の総額は大林組の財務部により既存の経理システム及びグリーンボンド用の稟議書を用いて管理していることを確認した。</p> <p>DNV GLは大林組内部手順によりグリーンボンド調達資金の残額が管理・記録可能であることを確認している。DNV GLは要求事項3aを満足していると結論付ける。</p>
3b	調達資金の追跡管理-2	グリーンボンドが償還されるまでの間、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大林組グリーンボンドフレームワーク - 大林組内部手順(経理管理手順等) - 2018年度資金充当実績関連資料 <p>大林組関係者との協議</p>	<p>DNV GLは文書のレビューとインタビューにより大林組がボンド発行時点から支出が完了するまでの間、調達資金の追跡調査計画に基づき実施していることを確認した。調達資金の残高はプロジェクト及び資産のリファイナンススケジュールに従い減少していることを確認した。少なくとも四半期毎の債券の未充当資金の残高は大林組の財務部門によりレビューされたことを確認した。DNV GLは要求事項3bを満足していると結論付ける。</p>
3c	一時的な運用方法	適格性のあるグリーンプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大林組グリーンボンドフレームワーク 2(3),2(4) - 訂正発行登録書 - 2018年度資金充当実績関連資料 <p>大林組関係者との協議</p>	<p>ボンドの手取り金は既存の経理システム内でグリーンボンド用の稟議書を使って財務部門により管理されている。また手取り金は大林組グリーンボンドフレームワークに従い速やかに全額が充当され、未充当資金については現金及び現金同等物で管理されていることを確認した。DNV GLは要求事項 3c を満足していると結論付ける。</p>

(4) レポートニング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はグリーンボンドで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を含む各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 守秘義務契約や競争上の配慮 - 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境改善効果 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大林組グリーンボンドフレームワーク 2(4) - 2018年度資金充当実績関連資料 - 再生可能エネルギー事業 CO₂ 削減効果の実績(2018年度) - 大林組グリーンボンド(株式会社大林組第 23 回無担保社債)レポートニング(大林組ウェブサイトで公開) - 環境データ/環境活動実績(*グリーンビルディング CO₂ 削減効果を集約して記載、詳細は本文表-1 プロジェクト 06 を参照) - CO₂ 削減効果評価シート <p>大林組関係者との協議</p>	<p>大林組はグリーンボンドで要求される特定の項目を1年に1回報告する計画に基づき、「大林組グリーンボンド(株式会社大林組第 23 回無担保社債)レポートニング」、「環境データ/環境活動実績」としてウェブサイト上で公開した。この報告には、プロジェクトに関する記載や調達資金の充当状況、関連する定量的及び定性的な環境影響評価が含まれていることを確認した。大林組は CO₂ 排出削減量総量を運転記録(年間当たりの発電量 MWh/年)に基づき報告していることを確認した。DNV GL は要求事項 4a を満足していると結論付ける。</p>